

財政課契約検査系の挑戦

～入札・契約DXが起こす社会変革の波～



財政課契約検査系では、紙媒体を使用した入札・契約事務における事業者・市職員双方の負担軽減を図るため、入札手続き、入札参加資格審査申請手続き、契約手続きのデジタル化・ペーパーレス化を極めて短期間で実現しました。

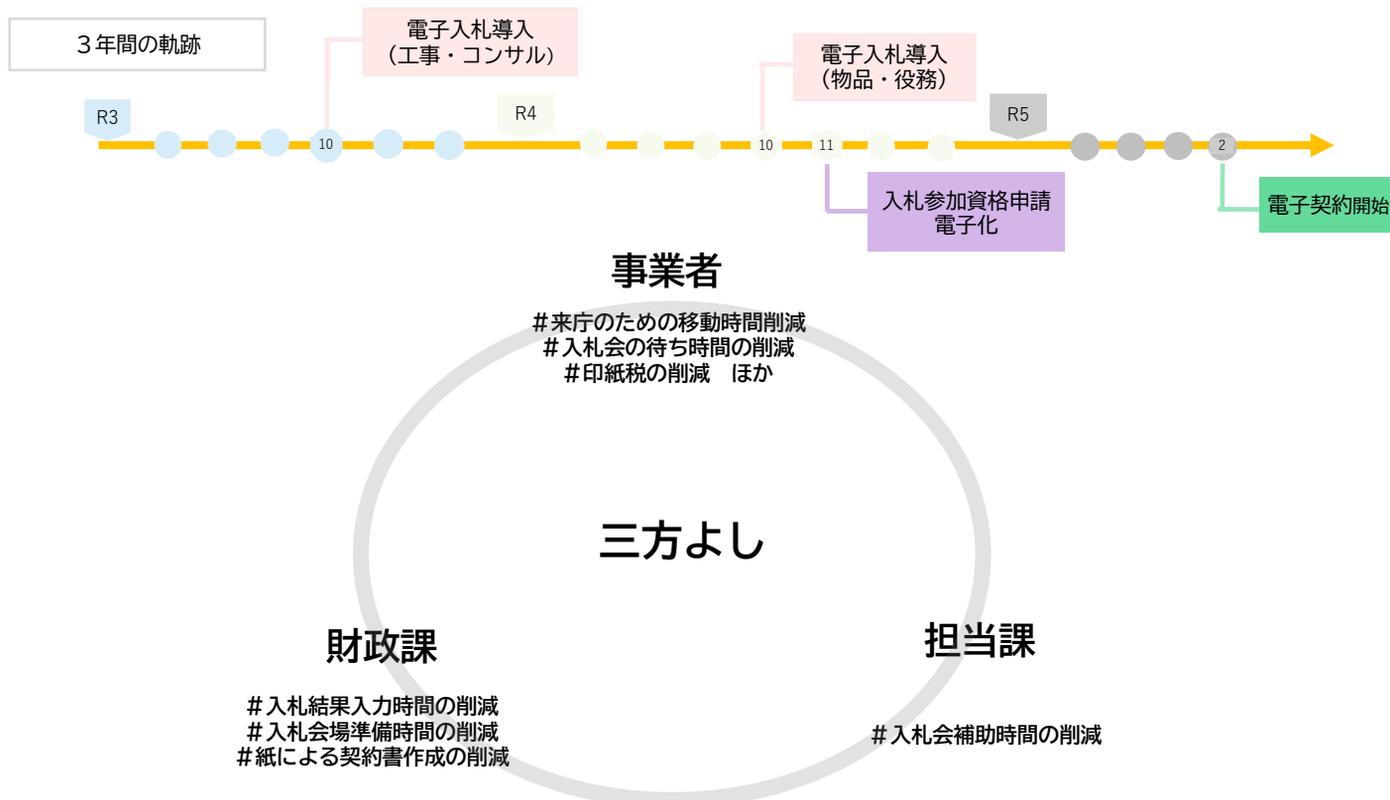
原点にあったのは新たなものを積極的に取り入れていく挑戦の気概と、相手の立場に立ってものごとを考える誠実さです。（新型コロナの流行に係る感染症対策も強い追い風になりました）

本レポートは従来の手続きの様々な問題点に着目し、改善に取り組んだ財政課契約検査系の挑戦の軌跡を振り返るものです。



1 背景

これまでの入札・契約に関わる手続きは、事業者が市役所まで出向き、設計図書を入手したり、入札書を提出していました。市側も財政課契約検査系は紙入札の手続きの準備、担当課は入札会の事務補助という業務負担を強いられていました。財政課契約検査系は、事業者、財政課、担当課にとって「三方よし」となるような契約手続き全般のデジタル化・ペーパーレス化に着手しました。



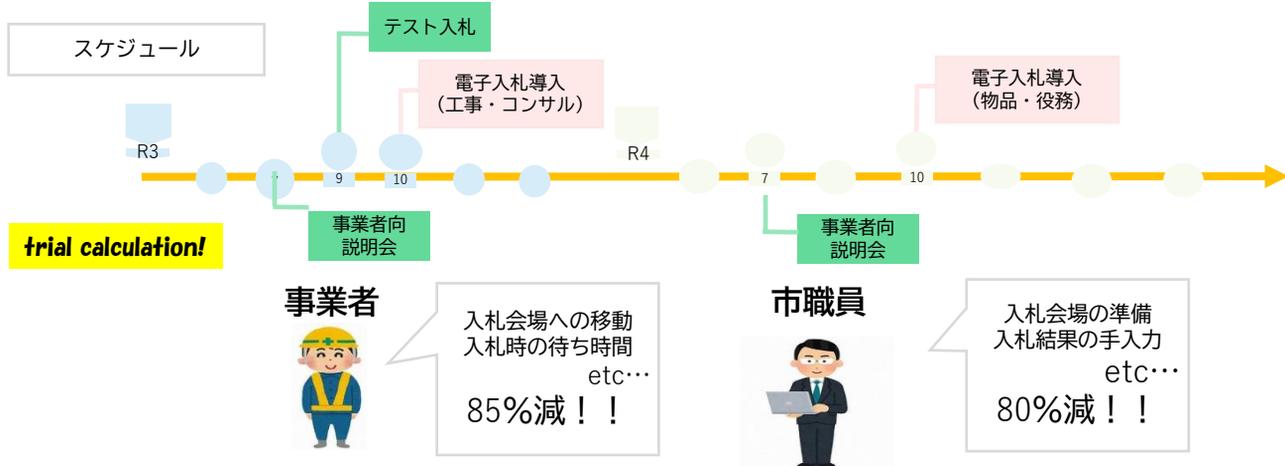
【回顧録】こんなことがありました

入札・契約事務電子化の背景として非常に大きかったのが、新型コロナウイルスの流行による感染症対策が市役所すべての業務に求められたことです。もともとのきっかけは事業者の入札契約事務手続きに係る来庁時間の負担軽減を求める声に応じたことが大きな理由でしたが、慣れ親しんだ紙での手続きを希望する事業者にとっても、新型コロナの流行は電子化に対応していく必要性を認識いただく機会となりました。

2 電子入札

入札を行うためには、事業者が市役所へ直接出向き、指定された時間に入札箱に金額等を記載した入札書を入れる必要があります。入札日には複数の入札案件を取り扱いますので、開札にはかなりの時間がかかっており、事業者、市職員双方の負担となっていました。

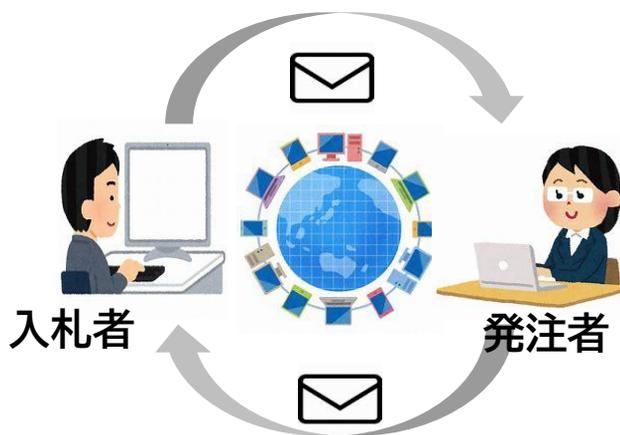
これを改善するために、電子入札システムを導入し、入札手続きのオンライン化を進めたのです。



従来の入札



電子入札



入札にかかるコスト・拘束時間が膨大

入札にかかるコスト・拘束時間が減少

【回顧録】こんなことがありました

電子入札システムを導入してから3か月ほど経過したとある開札の日、利用している電子入札システムがトラブルにより停止し、開札手続きが行えなくなっていました。

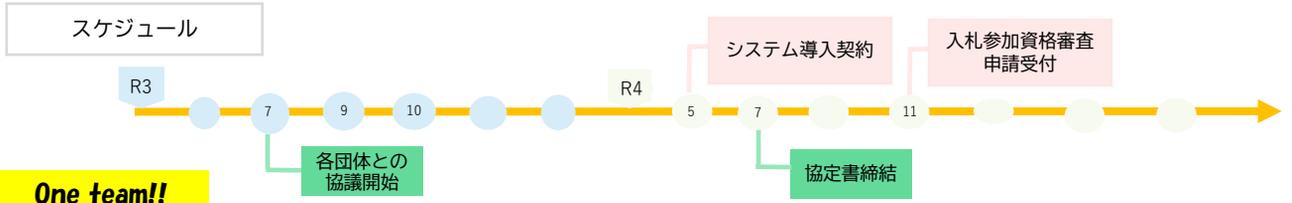
財政課契約検査係は速やかに影響のあった事業者に状況説明の電話と開札時間を変更するFAXを送信し、システムはおよそ12時間後に復旧し無事開札を終えることができました。

電子入札の利便性はとてもありがたいものですが、同時に全ての入札手続きが長い期間電子化されてしまうと、電子という1つの手段に頼り続けるリスクがあるのではないかと考えさせられた1日でした。

3 入札参加資格審査

市役所等が執行する入札に参加するためには、事前に必要書類を準備して参加申請を行わなければなりません。この必要書類は納税証明書や工事の実績書等多岐に渡り、かつ北上市ほか各自治体で統一されていない様式が運用されており、提出も各団体それぞれ行わなければなりませんでした。

この問題を解決するため、様式や要領を県南地区5市3町6一部事務組合で統一しつつ、システムを開発してオンラインで一度に受付を行うことができるよう整備しました。



One team!!

- 自治体（5市3町） 北上市、花巻市、奥州市、一関市、遠野市、金ケ崎町、西和賀町、平泉町
- 一部事務組合（6組合） 北上地区広域行政組合、岩手中部広域行政組合、岩手中部水道企業団、北上地区消防組合、奥州金ケ崎行政事務組合、一関地区広域行政組合

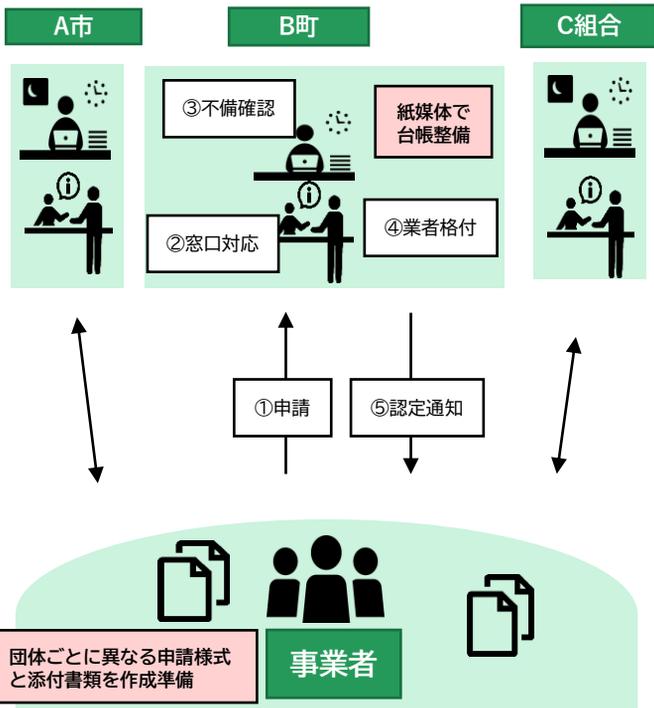
results

	導入前	導入後	
□ 県南全体の申請延べ件数	14,626件	→ 22,900件	約1.56倍
□ 審査件数	14,626件	→ 3,636件	約1/4

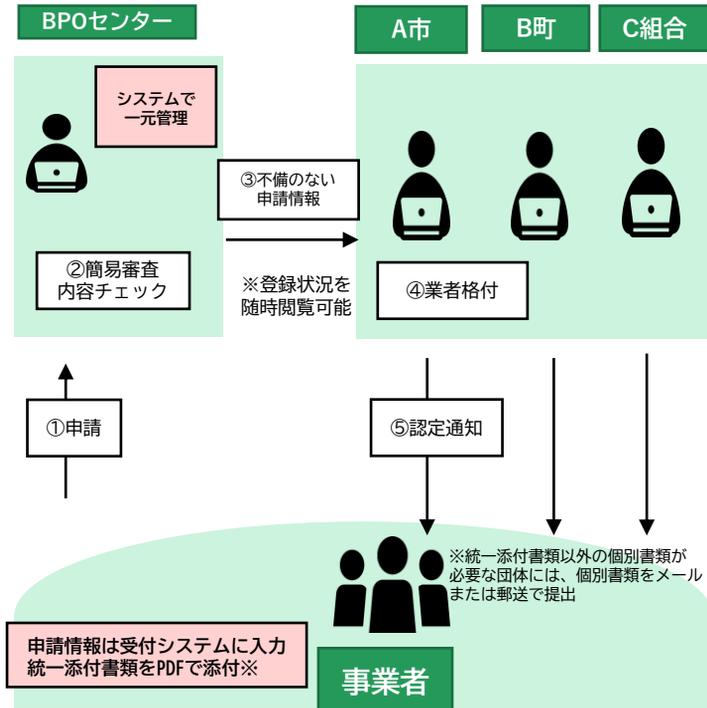
導入前よりたくさんの申請

審査に係る負担は75%減

before



after



【回顧録】 こんなことがありました

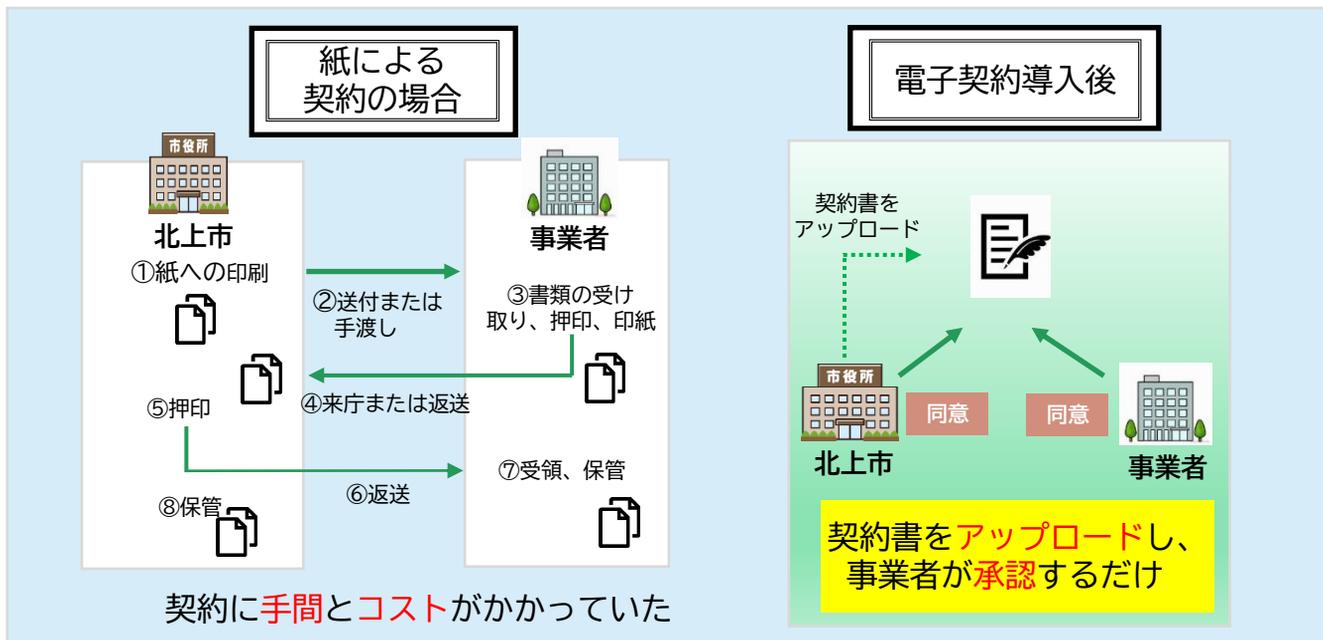
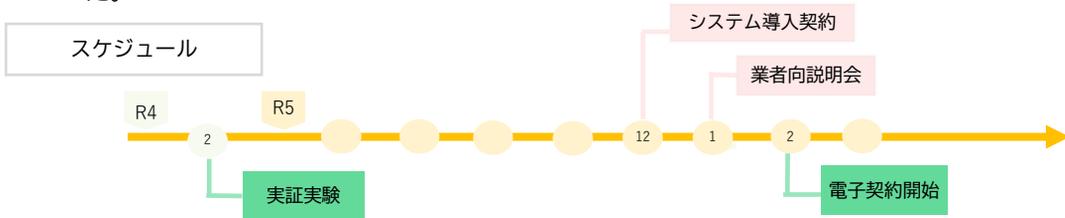
システムの広域導入に伴う労働生産性の向上は非常に大きく、財政課契約検査係にわざわざメールや電話でシステム導入に関するお礼の連絡がありました。庁舎や税務署を車で何度も往復し、各団体ごとに異なる細かいローカルルールによって何度も申請書を再提出していた負担がなくなったため、他の業務に十分な時間を振り分けることができるようになりました。

4 電子契約

財政課契約検査係は、さらなるオンライン化への挑戦として電子契約システムを導入しました。

従来の契約手続きは、事業者が来庁して市から契約書を受け取り、事業所で押印した後、再び市役所に向かって市側で押印をした契約書を受け取っていました。

この事務手続きには多くの手間がかかるため、電子契約システムを導入し、契約締結事務に係る負担を軽減しました。



Reduction effect !!

	導入前	導入後
契約書類の紙使用量	約5,200枚	0枚
業務時間	受注者780時間	受注者97時間
	発注者390時間	発注者130時間

【まとめ】

財政課契約検査係の職員は、「自分の仕事がラクになる」「とにかく電子化すればいい」といった単純な考えで改革に取り組んでいたわけではありません。

社会全体の労働生産性向上という大きな変革に自ら積極的に挑み、北上市職員が古くからもつ「新しいことに積極的に挑戦していく気質」を十分に発揮し、産みの苦しみ、仕事に変化していく過程の大きなうねり、大波のようなものを感じながらも、チーム全員で一丸となってDXを進めていきました。

電子入札や電子契約は共同利用している入札参加資格申請システムと同様他団体から一緒にやれないかと相談を受けるなど、契約検査係はいまも**県南地区全体的入札・契約事務革新のトップランナー**として走り続けています。

お問い合わせ

入札・契約事務について：財務部財政課 ☎ 0197-72-8262 ✉ zaisei@city.kitakami.iwate.jp

レポートについて：北上市近未来政策研究所（企画部政策企画課） ☎ 0197-72-8229 ✉ kikaku@city.kitakami.iwate.jp